

簿記の教室メイプル Twitter 校

2020 年 GW 合宿企画

簿記 3 級計算問題大会

### 注意事項

- 問題は計 15 問（基礎編 10 問、応用編 5 問）です。
- 制限時間は、基礎編は 1 問 2 分、応用編は 1 問 3 分です。合計 35 分になります。
- 筆記用具、電卓の他、答案用紙（用意出来た方）、メモ用紙をご用意ください。  
なお、答案用紙は 2 枚です。  
※ 答案用紙を印刷できなかった方は、ご用意いただいたメモ用紙に、答えが分かるように記載いただければ結構です。
- この画面上で、1 問ずつ出題します。  
時間が来たら、合図とともに次の問題を表示しますので、解答の途中でも切り替えて次の問題を解いてください。
- **商品売買に関する問題については、問題文で特に指示がない場合は、3 分法により解答してください。**
- 全て解いていただいた後に、答え合わせをします。  
問題によっては解説を載せておりますが、時間の都合上、詳しい解説は省略します。  
後程、各自でご一読いただき、復習などをしていただければと思います。勿論、今回の問題についてのご質問も歓迎します。
- 1 問 1 ポイントで、計 15 ポイント満点です。  
一部問題で部分点があります。部分点について記載がないものは、全て正解で 1 ポイントです。
- **優勝した方には、素敵な景品をプレゼントします！**

それでは、始めていきましょう。

第 1 問 基礎編①（問題）

次の取引を仕訳しなさい。

[取引]

商品を 700,000 円で購入し、代金は掛けとした。  
なお、商品の運送料 3,000 円は現金で支払った。

[使用可能勘定科目]

現金、当座預金、買掛金、仕入、支払運賃

## 第2問 基礎編②（問題）

次の取引を仕訳しなさい。

[取引]

- ① メイプル株式会社は、タンポポ株式会社に対する買掛金 430,000 円の支払いを電子債権記録機関で行うため、取引銀行を通じて債務の発生記録を行った。
- ② メイプル株式会社について、①で電子債権記録機関に発生記録した債務 430,000 円の支払期日が到来したので、当座預金からその代金が引き落とされた。

[使用可能勘定科目]

現金、当座預金、売掛金、受取手形、電子記録債権、買掛金、支払手形、電子記録債務

### 第3問 基礎編③（問題）

次の取引を仕訳しなさい。

[取引]

当社は、不動産業を営む法人である。

当期の5月18日に、事務用の机とイスを1,000,000円で購入し、代金は当社の支払い条件に基づき、来月10日に支払うこととした。

なお、運送料5,000円は現金で支払った。

[使用可能勘定科目]

現金、普通預金、当座預金、備品、買掛金、未払金、仕入、支払運賃

第4問 基礎編④（問題）

メイプル株式会社における、次の取引を仕訳しなさい。

[取引]

- ① 決算にあたり、当期純利益 800,000 円を計上した。
- ② 決算にあたり、当期純損失 500,000 円を計上した。

[使用可能勘定科目]

各自推定

第5問 基礎編⑤（問題）

次の資料に基づき、

- ① 当期の売上原価算定のために必要となる決算整理仕訳を答えなさい。  
（売上原価の計算は、仕入勘定にて行うものとする。）
- ② 当期の売上総利益はいくらになるか、答えなさい。

[資料]

決算整理前残高試算表（一部）（単位：円）

∴			∴
繰越商品	374,800		∴
∴			∴
仕入	6,253,900	売上	11,275,600
∴			∴

期末商品に関する事項

期末在庫数量 110 個

1 個あたりの単価 3,210 円/個

[使用可能勘定科目]

各自推定

第 6 問 基礎編⑥（問題）

次の取引を仕訳しなさい。

[取引]

当社は、自動車販売業を営む法人である。

当期の 8 月 6 日に、販売目的の自動車 3 台を 1 台あたり 2,000,000 円で購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

なお、自動車 3 台分の輸送費用 100,000 円は現金で支払った。

[使用可能勘定科目]

現金、普通預金、当座預金、車両運搬具、買掛金、未払金、仕入、支払運賃

第7問 基礎編⑦（問題）

次の資料に基づき、問いに答えなさい。

[資料]

当社は伝票会計（3伝票制）を採用している。

11月20日、得意先に商品300,000円を販売し、代金のうち200,000円は現金で受け取り、残額は掛けとした。

この取引により、当社が作成した振替伝票は次の通りである。

<b>振替伝票</b>		
××年11月20日		
（売掛金）	300,000	（売上） 300,000

このとき、同時に作成する入金伝票に記入される仕訳はどのようになるか、答えなさい。

第8問 基礎編⑧（問題）

次の資料に基づき、問いに答えなさい。

[資料]

次の①、②の取引について、①、②の取引がそれぞれの補助簿に記入されるか、補助簿の一覧「A」～「I」の中から該当するものを全て選び、そのアルファベットを答案用紙に記入しなさい。

- ① 仕入先より商品 100,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。  
なお、引取運賃 2,000 円は現金で支払った。
- ② 得意先に商品 270,000 円を販売し、100,000 円は得意先振出しの約束手形を受け取り、残額は掛けとした。なお、当社負担の発送費用 3,000 円は小切手を振り出して支払った。

[補助簿の一覧]

- A、 現金出納帳
- B、 当座預金出納帳
- C、 商品有高帳
- D、 売掛金元帳（得意先元帳）
- E、 買掛金元帳（仕入先元帳）
- F、 仕入帳
- G、 売上帳
- H、 受取手形記入帳
- I、 支払手形記入帳

## 第9問 基礎編⑨（問題）

次の資料に基づき、決算にあたり必要となる仕訳を答えなさい。  
なお、①と②の仕訳をまとめて行うこと。

### [資料]

当社は、切手の購入時に通信費、印紙の購入時に租税公課として、それぞれ費用処理している。  
決算にあたり切手と印紙の在庫状況を確認したところ、以下の通りであった。

- ① 切手の未使用枚数は、84円切手20枚であった。これを適切な勘定へ振り替える。
- ② 印紙について、帳簿上は200円印紙が10枚残っているはずであったが、実際の在庫数は9枚であった。  
実際の在庫数9枚については、適切な勘定へ振り替える。  
不足分の1枚については調査を行ったが、原因が判明しなかったため雑損として処理することにした。

### [使用可能勘定科目]

貯蔵品、通信費、租税公課、雑損

第 10 問 基礎編⑩ (問題)

次の取引を仕訳しなさい。

[取引]

今月分の、従業員に対して支給する給料は税込み 5,200,000 円であった。  
このうち所得税の源泉徴収分 380,000 円、及び健康保険等の社会保険料合計 480,000 円を控除し、  
残額を当社の当座預金口座から、各従業員の預金口座へ振り込んで支払った。

[使用可能勘定科目]

普通預金、当座預金、所得税預り金、社会保険料預り金、給料

第 11 問 応用編①（問題）

次の資料に基づき、質問に答えなさい。

[資料]

決算日において、貸方に計上していた現金過不足 54,800 円の原因を調査した結果、次の現金取引の仕訳が行われていなかったことが判明した。

- ① 広告代理店への広告費支払い 25,000 円
- ② 得意先からの売掛金回収 80,000 円

残りの金額については原因が不明であった。

これらの事項を適切に処理した場合に計上されることになる雑損、又は雑益の金額はいくらになるか、答えなさい。

（雑損、雑益のいずれかに○をつけた上で金額を回答すること。）

第 12 問 応用編② (問題)

次の資料に基づき、質問に答えなさい。

[資料]

当社が作成した決算整理前残高試算表 (一部) は次の通りである。

受取手形	627,000	貸倒引当金	31,867
売掛金	1,555,000		

決算整理前残高試算表を作成した後に、当期中に発生した下記の取引が未処理であったことが判明した。

[取引]

前期以前に発生した売掛金 22,000 円が回収不能となったため、貸倒れとして処理する。

[決算整理事項]

期末の売掛金、受取手形の残高に対し、2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。

以上の条件により、当期の損益計算書に計上される貸倒引当金繰入の金額はいくらになるか、答えなさい。

第 13 問 応用編③ (問題)

次の取引を仕訳しなさい。

[取引]

当社は 3 月決算法人である。

当期の 9 月 30 日、取得原価 17,000,000 円 (耐用年数 10 年、残存価額は 0、減価償却方法は定額法、記帳方法は間接法)、減価償却累計額 11,900,000 円の備品を、5,000,000 円で売却し、代金は先方振出の小切手で受け取った。

なお、当期の減価償却の計算は月割りにより行う。

[使用可能勘定科目]

現金、当座預金、備品、減価償却累計額、減価償却費、固定資産売却損、固定資産売却益

第 14 問 応用編④（問題）

次の資料に基づき、問いに答えなさい。

[資料]

当社（3月決算法人）は、本社ビルの家賃1年分を毎年12月1日に前払いで支払っている。前期から繰り越された前払家賃、8,000,000円については当期首において適切に処理していたが、当期の12月1日に支払った1年分の家賃?円（各自推定）について、支払時に全て仮払金として処理していた。このとき、当期の支払家賃勘定、及び前払家賃勘定を正しい金額で計上するために必要となる仕訳を答えなさい。なお、前期から当期にかけて、本社ビルの1ヶ月あたりの家賃の金額に変動はない。

[使用可能勘定科目]

仮払金、前払家賃、支払家賃

第 15 問 応用編⑤ (問題)

次の資料に基づき、質問に答えなさい。

[資料]

当社が作成した決算整理前残高試算表 (一部) は次の通りである。

⋮		⋮	
仮払消費税	600,000	仮受消費税	900,000
⋮		⋮	

決算整理前残高試算表を作成した後に、当期中に行われた下記の取引が未処理であったことが判明した。

[取引]

得意先に商品を 100,000 円で販売し、代金は 10,000 円の消費税とともに現金で受け取った。

以上の資料に基づき、当社が納付すべき当期の消費税額はいくらになるか、答えなさい。

(仮払消費税、仮受消費税を未払消費税に振り替える仕訳は、解答する必要はない。)

第1問 基礎編① (解答)

答え	(借方)	仕入	703,000	(貸方)	買掛金	700,000
					現金	3,000

解説

商品を購入した際に発生する費用のことを、仕入諸掛といいます。  
仕入諸掛が発生した場合は、すべて仕入に含めて処理します。

第2問 基礎編② (解答)

答え ① (借方) 買掛金 430,000 (貸方) 電子記録債務 430,000  
② (借方) 電子記録債務 430,000 (貸方) 当座預金 430,000

解説

- ① 債務の発生記録を行った場合は、買掛金を減少させ、電子記録債務（負債）を計上します。
- ② 電子記録債務 430,000 円が当座預金口座から引き落とされたので、電子記録債務と当座預金が減少します。

電子記録債権、電子記録債務の問題は、受取手形、支払手形の電子版と考え、同じように仕訳をすれば解答することができます。

しかし、電子化することによるメリットがいくつかありますので、通常の手形（紙の手形）との違いをテキスト等で確認しておきましょう。

第3問 基礎編③ (解答)

答え	(借方)	備品	1,005,000	(貸方)	未払金	1,000,000
					現金	5,000

解説

有形固定資産の取得の際に発生する費用のことを付随費用と言います。

この付随費用も、商品を仕入れたときに仕入諸掛を仕入に含めたのと同じように、有形固定資産に含めて仕訳をします。

備品の本体代金 1,000,000 円については、来月 10 日に支払うこととしており、

商品以外のものを購入して代金を払っていない場合に該当するため、未払金勘定で処理します。

第4問 基礎編④ (解答)

答え ① (借方) 損益 800,000 (貸方) 繰越利益剰余金 800,000  
② (借方) 繰越利益剰余金 500,000 (貸方) 損益 500,000

解説

本問は、決算にあたっての利益、損失の振替に関する問題です。

株式会社では、決算にあたって損益勘定で算定した当期純利益、当期純損失の金額を繰越利益剰余金勘定に振り替えます。

繰越利益剰余金とは、これまで計上してきた利益の蓄積部分であり、まだ処分（配当など）がされていないもののことです。

繰越利益剰余金は、「利益の貯金箱」のような勘定であり、利益を計上すれば増加し、損失を計上すれば減少します。

第5問 基礎編⑤ (解答)

答え ① (借方) 仕入 374,800 (貸方) 繰越商品 374,800  
(借方) 繰越商品 353,100 (貸方) 仕入 353,100

② 5,000,000 円 (両方正解で1ポイント、①のみ正解の場合は0.5ポイント)

計算過程

- ・ 売上原価の算定  
期首商品棚卸高 374,800 円 … 決算整理前残高試算表の金額です。  
期末商品棚卸高 110 個 × 3,210 円/個 = 353,100 円  
売上原価算定のため、期首商品は仕入勘定に含め、期末商品は仕入勘定から除く必要があります。  
以上より、売上原価は 374,800 円 + 6,253,900 円 - 353,100 円 = 6,275,600 円となります。
- ・ 売上総利益 (粗利) は、売上高から売上原価を引いて求めます。  
11,275,600 円 - 6,275,600 円 = 5,000,000 円 です。

(参考) 仕入、繰商、繰商、仕入(仕、繰、繰、仕)の仕訳の意味

3分法における売上原価算定の内容は3級の重要論点の一つであり、多くの方が習得するのに時間がかかる場所ですが、意外と2級を勉強されている生徒さんでも、「仕、繰、繰、仕」と取り敢えず仕訳をしていて、結局この仕訳は何を意味しているか、あまり解っていない方がいらっしゃいます。是非、内容をしっかり理解した上で仕訳できるようになっていただきたいと思います。

「仕、繰、繰、仕」の仕訳は、当期の売上原価を算定するための仕訳です。

当期の売上原価(費用)を正しく計算することで、当期の売上(収益)と対応し、正しい利益の計算をすることができます。

しかし、文字だけの説明ではわかりにくいので、具体的な数字を使いながら「仕、繰、繰、仕」の仕訳の意味を考えていきます。

[すべてのケースに共通する事項]

当期商品仕入高 … 150,000 円、 当期の売上高 … 200,000 円

[ケース1] 期首、期末に商品の在庫が存在しない場合

[ケース1]は、商品の在庫が期首にも期末にもない、最も単純なケースです。

3分法では、商品を仕入れたときに仕入勘定(費用)で仕訳をします。従って、期末時点での仕入、売上勘定は次のようになります。

仕	入	売	上
150,000			200,000

仕入は、売上原価を計算するための勘定です。在庫がない場合は、特に何も調整しなくても仕入=売上原価になります。

在庫がないということは、当期に仕入れた商品150,000円が全て販売されて、お客さんの手元に渡っており、

その代金としてお客さんから200,000円を受け取ったということなので、

売上勘定と仕入勘定(売上原価)の差額50,000円がそのまま正しい利益となります。

従って在庫がなければ、「仕、繰、繰、仕」の仕訳は行われません。

[ケース2] 商品の在庫が期首に 10,000 円存在する場合

[ケース2] では、期首のみ在庫がある場合を考えます。

期末時点（決算整理前）の各勘定残高は次のようになります。

繰越商品	仕入	売上
10,000	150,000	200,000

もし、このまま何も仕訳をしなかった場合は、当期の利益は [ケース1] と同じ、50,000 円と計算されます。

しかし、期首に商品 10,000 円が自分の手元にあり、期末には無いということは、この期首商品 10,000 円もお客さんの手に渡っているということです。

つまり、200,000 円の収益（売上）を獲得するためにかかった費用（売上原価）は、当期に仕入れた 150,000 円だけではなく、期首に持っていた商品 10,000 円も含めた 160,000 円になります。

従って、このままでは仕入勘定の金額が正しい売上原価の金額にはなりません。そこで正しい売上原価の金額にするために、期首商品（繰越商品）の金額を仕入勘定に振り替える仕訳を行います。これが「仕、繰」の仕訳です。

(借方) 仕入 10,000 (貸方) 繰越商品 10,000

この仕訳を勘定に転記します。

繰越商品	仕入	売上
10,000	150,000	200,000
10,000	10,000	

これで、仕入勘定の残高が正しい売上原価の金額である 160,000 円に修正されるのと同時に、手元に商品はありませので、繰越商品勘定（B/S の商品勘定）の残高もゼロになり、期末時点の状況を正しく勘定に反映させることができます。

以上より、このケースでは正しい利益の金額は  $200,000 \text{ 円} - 160,000 \text{ 円} = 40,000 \text{ 円}$  となります。

[ケース3] 商品の在庫が期首に 10,000 円、期末に 20,000 円存在する場合

[ケース3] では、期首、期末ともに在庫がある場合を考えます。これが通常、問題として出題されるケースです。

期末に在庫があっても、期首商品についての考え方、及び決算整理仕訳「仕、繰」は同じです。

スペースの関係上、期首商品についての仕訳と、それを反映した各勘定の掲載は省略しますので、[ケース2] をご確認ください。

さて、期首の処理のみ行った状態では、売上原価が 160,000 円、つまりお客さんの手に渡った商品が 160,000 円になっています。

しかし、このケースでは期末時点で、自分の手元に商品が 20,000 円存在しています。

従って、当期にお客さんの手に渡った商品は、期首商品と当期仕入の合計 160,000 円から、

期末時点で手元に残っている商品 20,000 円を引いた、140,000 円ということになります。

この 140,000 円が、200,000 円の収益（売上）を獲得するためにかかった費用（売上原価）です。

従って、この状況を勘定に反映させるため、仕入（売上原価）を減らし、繰越商品（資産）を増やす仕訳を行います。

これが「繰、仕」の仕訳です。

(借方) 繰越商品 20,000 (貸方) 仕入 20,000

この仕訳を [ケース2] の勘定に追加で転記します。

繰越商品		仕入		売上	
10,000	10,000	150,000	20,000		200,000
20,000		10,000			

これで、仕入勘定の残高が正しい売上原価の金額である 140,000 円に修正されるのと同時に、

繰越商品勘定 (B/S の商品勘定) の残高が 20,000 円になり、期末時点の状況を正しく勘定に反映させることができます。

以上より、このケースでは正しい利益の金額は 200,000 円 - 140,000 円 = 60,000 円 となります。

いかがでしょうか。問題演習のときは時間制限があり、ゆっくり考えている時間はないので、

普段の勉強の中で今一度じっくりと意味を考える時間をとり、是非内容を理解して仕訳を切れるようになりましょう！

第6問 基礎編⑥ (解答)

答え	(借方)	仕入	6,100,000	(貸方)	当座預金	6,000,000
					現金	100,000

解説

第3問と似ている問題ですが、第3問との違いを確認してください。

本問について、当社は自動車販売業を営む法人であるため、販売目的で購入した自動車は商品に該当します。

従って、車両運搬具（固定資産）ではなく、仕入で仕訳を行います。

自動車を3台購入していることと、第1問と同じく仕入諸掛を仕入に含めるという点にも注意して仕訳を行う必要があります。

コメント

本問では、問題文の最初に「当社は、自動車販売業を営む法人である。」とありますが、この一文がなくても、この会社にとっての自動車は商品であると判断しなければなりません。それは、次の文章の途中で購入したのが「販売目的の自動車」と書いてあるためです。解っているのに、キーワードを読み飛ばして点数を落としてしまっは勿体ないです。特に仕訳の問題は配点も大きいので、慎重に問題文を読むようにしましょう。

第7問 基礎編⑦ (解答)

答え (借方) 現金 200,000 (貸方) 売掛金 200,000

解説

まず、本問の取引の仕訳は以下のようになります。

(借方) 現金 200,000 (貸方) 売上 300,000  
売掛金 100,000

伝票会計を採用している場合、2行にまたがる仕訳は1枚の伝票に記入することができません。

従って、この問題の取引のように2行にまたがる仕訳は、2枚の伝票に分けて記入することになります。

記入方法には

- ① 取引を分解する方法
- ② 取引を擬制(仮定)する方法

の2つがあります。

この問題は②の方法によっています。

まず、売上300,000円を全て掛けで行ったと仮定します。これが、問題文で示されている振替伝票で表されます。

その後、直ちに売掛金の内200,000円を回収したと考えます。これが解答の仕訳です。

従って、取引を擬制する方法では以下のような仕訳を行うことになります。

振替伝票 (借方) 売掛金 300,000 (貸方) 売上 300,000  
入金伝票 (借方) 現金 200,000 (貸方) 売掛金 200,000

2枚の伝票を合わせれば、解説の始めに示した仕訳と同じになることをご確認下さい。

伝票会計は、本試験でも非常によく出題されます。色々な問題を解き、得意論点にできるようにしましょう。

第8問 基礎編⑧ (解答)

答え ① A、C、E、F

② B、C、D、G、H (両方正解で1ポイント、1問正解で0.5ポイント)

解説

補助簿選択の問題は、取引の仕訳をしたのちに、どの補助簿に記入されるかを考えていきます。

本試験では、答案用紙に表が示され、該当する補助簿に○をつける問題が良く出ます。

本問は、該当するものを選択し、記号で答える問題ですが、解き方は同じです。

①	(借方)	仕入	102,000	(貸方)	買掛金	100,000
					現金	2,000
②	(借方)	受取手形	100,000	(貸方)	売上	270,000
		売掛金	170,000			
		発送費	3,000		当座預金	3,000

特に商品が動く取引(返品があった場合も含む)は、商品有高帳の選択を忘れないように注意してください。

第9問 基礎編⑨ (解答)

答え	(借方)	貯蔵品	3,480	(貸方)	通信費	1,680
		雑損	200		租税公課	2,000

(参考)

もし、①と②を分けてそれぞれ仕訳した場合の仕訳は、以下の通りです。

①	(借方)	貯蔵品	1,680	(貸方)	通信費	1,680
②	(借方)	貯蔵品	1,800	(貸方)	租税公課	2,000
		雑損	200			

計算過程

①	切手	84円×20枚	=1,680円	
②	印紙 帳簿	200円×10枚	=2,000円	(租税公課から振替)
	実際	200円×9枚	=1,800円	(貯蔵品に計上)
		差額	200円	(雑損として処理)

解説

切手や印紙を購入時に費用として処理した場合は、原則として期末時点での未使用分を貯蔵品に振り替える必要があります。

まずはこちらの基本的な処理をしっかりと押さえて下さい。

この問題ではそれに加えて、印紙の枚数不足分を雑損として処理するという仕訳を確認しました。

あまり見かけない問題だと思いますが、そのような問題でも問題文の指示を適切に読み取り、

それを仕訳に反映できるかがポイントです。

第 10 問 基礎編⑩ (解答)

答え	(借方)	給料	5,200,000	(貸方)	当座預金	4,340,000
					所得税預り金	380,000
					社会保険料預り金	480,000

解説

従業員への給与支払いの仕訳です。  
給料関係の仕訳としては、この支払いの仕訳の他、  
預り金の納付の仕訳もありますので、合わせて確認しておきましょう。

第 11 問 応用編① (解答)

答え 雑損 200 円

計算過程

現金過不足が貸方に計上されているということは、帳簿残高よりも実際有高の方が多かったことを表しています。

☆ 現金過不足計上の仕訳

(借方)	現金	54,800	(貸方)	現金過不足	54,800
------	----	--------	------	-------	--------

この現金過不足の原因を調査し、適切な勘定へ振り替えます。

調査しても過不足の原因がわからなかった金額を、雑損、又は雑益に計上します。

☆ 適切な勘定へ振り替えるための仕訳

(借方)	現金過不足	54,800	(貸方)	売掛金	80,000
	広告宣伝費	25,000			
	雑損	200			

## 第 12 問 応用編② (解答)

答え 33,333 円

### 計算過程

まず、未処理事項の処理を行います。前期以前に発生した売掛金の貸倒れなので、貸倒引当金を減少させます。

(借方)	貸倒引当金	22,000	(貸方)	売掛金	22,000
------	-------	--------	------	-----	--------

これを反映させると、貸倒引当金、貸倒引当金繰入を計算する前の各勘定残高は以下の通りになります。

受取手形 … 627,000 円、売掛金 … 1,533,000 円、貸倒引当金 … 9,867 円

続いて、設定すべき貸倒引当金の金額を計算します。

$(627,000 \text{ 円} + 1,533,000 \text{ 円}) \times 2\% = 43,200 \text{ 円}$

この 43,200 円は、貸借対照表に計上される貸倒引当金の金額です。

貸倒引当金は、売掛金や受取手形のマイナスを表す評価勘定であるため、資産の部に△をつけて表示します。

最後に貸倒引当金繰入の計算です。

貸借対照表に計上する貸倒引当金は 43,200 円ですが、残高が 9,867 円残っています。

従って、差額である 33,333 円が貸倒引当金繰入の金額となります。

### コメント

債権、貸倒引当金のそれぞれの残高の変更を加味した上で貸倒引当金、貸倒引当金繰入の金額を計算するという、かなり難易度が高いタイプの問題です。

これが解ければ、3 級の本試験で出題される貸倒引当金関係の問題は、ほぼカバーできると思います。

第13問 応用編③ (解答)

答え	(借方)	減価償却累計額	11,900,000	(貸方)	備品	17,000,000
		減価償却費	850,000		固定資産売却益	750,000
		現金	5,000,000			

計算過程

- ① 備品（資産）が17,000,000円減少するので、貸方に計上します。
- ② 減価償却累計額（資産のマイナスを表す評価勘定）が11,900,000円減少するので、借方に計上します。
- ③ 備品について、減価償却費を月割りで計算し、借方に計上します。  
月割計算 …  $17,000,000 \text{円} \div 10 \text{年} \times 6/12 = 850,000 \text{円}$
- ④ 備品売却代金として、先方振出の小切手を受け取ったので、借方現金として仕訳します。
- ⑤ 貸借差額で、固定資産売却損益を求めます。

解説

有形固定資産を売却した時は、そのマイナスを表している減価償却累計額を同時に無くす必要がある点に注意しましょう。

第 14 問 応用編④ (解答)

答え	(借方)	支払家賃	12,000,000	(貸方)	仮払金	12,000,000	← 12/1 処理の修正仕訳
		前払家賃	8,000,000		支払家賃	8,000,000	← 決算整理仕訳
	[別解]						
	(借方)	支払家賃	4,000,000	(貸方)	仮払金	12,000,000	← 上記仕訳をまとめた場合の仕訳
		前払家賃	8,000,000				

計算過程

- 1 年分の支払家賃金額の推定

ヒントになるのは、前期から繰り越された前払家賃が 8,000,000 円というところです。

12 月 1 日に 1 年分払っているということは、前払分として前期から繰り越されてくる金額は、4 月～11 月までの 8 ヶ月分です。

従って、1 ヶ月分の家賃は  $8,000,000 \text{ 円} \div 8 \text{ ヶ月} = 1,000,000 \text{ 円}$  であり、1 年分は 12,000,000 円と求めることができます。

(参考) 前期末の決算整理仕訳

(借方)	前払家賃	8,000,000	(貸方)	支払家賃	8,000,000
	当期首の再振替仕訳				

(借方)	支払家賃	8,000,000	(貸方)	前払家賃	8,000,000
------	------	-----------	------	------	-----------

- 当期支払い分についての処理

当期の 12 月 1 日に支払った家賃 12,000,000 円を仮払金として処理しているので、適切な勘定へ振り替えます。

前期から繰り越されてきた 8 ヶ月分、8,000,000 円はすでに当期の費用として計上済み (仕訳の青色の部分です。) なので、

当期に支払った金額の内、12 月～翌年 3 月までの 4 ヶ月分、4,000,000 円を支払家賃として費用計上すれば、

損益計算書の支払家賃の金額が合計 12,000,000 円になり、正しい利益の計算を行うことができます。

また、家賃の金額に変動はありませんので、次期に繰り越す前払家賃の金額は、前期と同額になっていることをご確認ください。

第 15 問 応用編⑤ (解答)

答え 310,000 円

計算過程

- ・ 未処理であった取引の仕訳

(借方)	現金	110,000	(貸方)	売上	100,000
				仮受消費税	10,000

- ・ 納付税額の算定と仕訳

仮払消費税 600,000 円 (前 T/B 残高)

仮受消費税 900,000 円 (前 T/B 残高) + 10,000 円 (未処理事項) = 910,000 円

未払消費税 910,000 円 - 600,000 円 = 310,000 円

(借方)	仮受消費税	910,000	(貸方)	仮払消費税	600,000
				未払消費税	310,000

解説

仮払消費税と仮受消費税を相殺して、未払消費税 (納めるべき消費税額) を求める仕訳の応用問題です。  
未処理事項を反映した後の仮払消費税、仮受消費税の金額に基づいて未払消費税の金額を計算する必要があります。

ご解答いただいた皆様、お疲れさまでした。

まずは一点、注意点がございます。

この問題は GW 企画の計算問題大会用に作成したものであり、実際に簿記検定試験で出題される形式とは異なる、クイズ形式のような問題も含まれています。

従って、この問題を繰り返し解いていただくというよりは、ご自身の得意な論点と、理解不十分な論点がどこなのかを確認するためのツールとしてお使いいただければと思います。

そして、曖昧だと感じた論点については、テキストや基本問題でしっかり内容を復習するようにしてください。

最後に、メイプルでは、簿記の勉強においてはとにかく理解が大事ということを皆様にお伝えしています。

テキストの内容をとにかく覚えようというのは、一見すると手っ取り早いように感じるかもしれませんが。

しかし、無理やり覚えたものというのは忘れやすく、思い出すのにも大変時間がかかります。

そして、覚えたのと同じような問題なら解くことができますが、少しひねられると全く対応できなくなってしまいます。

一方、理解を重視した勉強というのは時には時間が掛かり遠回りのように思えても、一度理解できたものは忘れにくく、たとえ忘れてしまったとしても、思い出すことは非常に容易です。

また、しっかり理解ができていれば、難しい応用問題にも対応することができるようになり、

簿記の勉強がどんどん楽しくなっていきます。

何より、理解に基づいた知識というものは、試験に合格された後にも色々な場面で必ず役に立つと思います。

是非理解することを大切にして勉強を進め、試験合格を勝ち取りましょう！心より応援しております😊

以上で簿記 3 級計算大会を終了します。

本日はお忙しい中ご参加いただき、ありがとうございました。